

緑の相談広場～緑と花の市民講座～
(2025年7月19日)

庭づくりの植物学
～植物の知識を生かそう～

石川県立自然史資料館

副館長・植物分野学芸員

中野真理子

庭とはなにかー日本における庭・庭園について

「庭園」は、明治時代に生まれた言葉

日本には、「庭園」に対して、古くは3つの異なるカテゴリーがあった。

二八 平坦な広がり。農家の作業場、宮殿の儀式の空間、石庭。

ソノ 植物がある囲われた空間。梅園、花園、植物園。

シマ 植物、石、水を用いて、意識的な造形を目指したもの。古代では、美的な空間造形をあらわすシマが庭園の代表。もとは大陸伝来の空間造形で、その後続く池中の中島に見られる。

日本の庭のはじまり

『日本書紀』推古天皇二十年（612年）の条

日本において庭づくりらしい技術が発揮された最初の記録。百済の帰化人によって、作庭の技術を伝えられた。

『日本書紀』推古天皇三十四年（626年）夏五月の条

曾我馬子の飛鳥川河畔の邸内に、池を掘り中島が築かれていたとの記事。今日の庭の形態に近いもの。馬子は人々から「島大臣（しまのおとど）」とよばれ、大陸伝来の池と島を備えた空間造形 シマ が評判だったことがわかる。

**華やかな大陸文化の影響で、建築・庭園への
大陸文化の移入が盛んに**

庭に自然風景を取り入れる日本人

『万葉集』第二十卷 4511

をしの住む 君がこのしま今日みれば あしびの花も咲きにけるかも

池にオシドリがいて、池辺には馬酔木（アセビ）の花が咲いているという、庭の美しさを歌う。

『万葉集』第十九卷 4271

松影の清き浜辺に玉敷かば 君きまさむか 清き浜辺に

奈良時代の庭で著名だった左大臣橘諸兄の相良の庭を歌ったもの。海岸の風景を模倣。
諸兄は京都盆地の野趣豊かな自然風景を好んだ。

**大陸文化憧憬の一方で、日本人固有の精神
をもって、表現**

日本庭園の庭木

平安時代を代表する建築様式の寝殿造に見る庭木

寝殿造では、その南面する庭の中央に、池をつくり、中島を築いた。

- ・中島には、アカマツやゴヨウマツ、庭のまわりに各種の樹木を植えこむ。
- ※松は長寿の象徴。日本庭園においては松をはじめ常緑樹が主役。
古来、常緑を神が君臨する際の依り代として大切にしてきた。

このような庭とは別に、「坪庭」をつくる。

- ・「坪」は、建築の間にできた小面積の空き地を庭園化したもの。たいてい1種類の樹木だけを植え、その名をとって藤壺、桐壺、萩坪などとよんだ。

日本庭園における庭木の変遷

鎌倉～南北朝時代：金閣寺、銀閣寺など

- ・たくさんの樹木を配植。当時、桜や紅葉の名所ともされる。

桃山～江戸時代初期：茶庭の発達

- ・茶道にふさわしい草木が植えこまれる。また、センリョウ、ヤブコウジなどが茶庭の通路や灯籠のまわりに用いられた。

江戸時代：多くの大名庭園は、池の周囲をめぐって楽しむ回遊式庭園

- ・梅林、桜の園、といった各種の樹木を集めた区画をつくるなど、各庭の独自性がみられる。ソテツなど珍しい種類を楽しんだりも。

身の回りの自然から庭木を選んで取り入れてきた

現代の庭木

- ・野生にみられる樹木、外国産の樹木が使われるようになる。
- ・屋敷林にしか使われなかったようなケヤキなどが庭園や公園の主木になる。
- ・お寺の境内や屋敷林の樹林、河岸段丘崖の緑、など伝統的な森林が失われつつある。
- ・都市公園や並木などの緑地が行政の計画にもとづいて作られる。
- ・地域本来の自然と結びついた庭づくりを目指す動き
- ・環境に配慮した庭木樹種選定、災害に強い緑のあり方、グリーンインフラ
- ・生物文化多様性 歴史と自然

石川県での庭づくりのための植物学

植物の生育に適した土地・環境

植物の分布

分布している自生種、生育条件が合っている種類

- ・石川県に生育している2500種類:外来種も含めて、野生しているもの
- ・強害雑草、生態系被害防止外来種(以前の要注意外来生物)には要注意

植物の生育環境

それぞれの種類の生育に適した場所、環境が必要

- ・尾根に生えるアカマツ:陽光がよく当たる排水の良い土地
- ・湿地に生えるハンノキ:水位の高い場所
- ・冷温帯林の代表樹種のブナ:肥沃で湿潤な土壤環境

適地適木

「郷土種」による庭づくり

郷土種とは、地域に自生している植物種のこと。地域本来の樹種選定を推奨する観点から、よく使われる用語。

- ・単に外国産の植物を使わないというニュアンスになりがち
- ・例えば「ブナは郷土種なので、どこ産のブナを植えてもいい」という誤った用方をされてしまう。

※「郷土種」という用語は、取扱い注意。“地域の樹種”など誤解が生じにくい用語を用いる方が望ましい。

種苗の調達

伝統的には、その土地の植物の種子や取り木などを用い、その土地に適した性質をもつ樹木が育てられた。

- ・現在は流通規模が全国的。他の土地の植物から得られ、他の土地で育成された種苗は、もともとの地域の植物に対して、遺伝子汚染などの害がある可能性がある。

植栽するとはどういうことか

栽培する時点で、すでに本来の自然ではない。管理が重要

- ・本来の生育地ではない場所で育てるので、できるだけ適切な管理を徹底する。
- ・園芸用として管理しやすいように育種した栽培種を用いる

※安易に野生植物を植栽に用いてはいけません！

※栽培種だからといって確実に問題がないというわけではありません！

正しい知識を得るよう心がけましょう

信頼できる販売者から入手しましょう。

- ・植物の名前や出回る時期などの情報をきちんと答えてくれる業者を見つける。
- ・図鑑などで、植物の名前や形態を知っておく。

※和名・学名・英名・流通名などを日頃から調べておきましょう。

園芸における植物の名前

日本の植物学の世界では、正式な名前「学名」、標準的に使われる「(標準)和名」がある

- ・栽培品種の学名：国際栽培植物命名規約に基づいて命名。栽培品種名を引用符‘ ’でくくって示す。以前は種名の後にcv.をつけてその後に栽培品種名を書いて表記。
Cyclamen persicum ‘Victoria’ (シクラメンの園芸品種ヴィクトリア)
- ・園芸業界ではコモンネームとよばれる通称名や学名で植物が流通
- ・学名のローマ字読みや短縮名、見た目で名づけられた“和名”などでも呼ばれる。

とてもややこしい…。

生物季節や暦と園芸作業

古代から農耕に活用されてきた自然暦、生物季節を活用しましょう

- ・ウメ(早春)、フジ(初夏)、アジサイ(梅雨)、サルスベリ(真夏)、イチヨウの黄葉(晩秋)
生物季節・花暦は、いろいろな植物によって季節を教えてください。
- ・二十四節気: 古代中国で太陽の運行をもとに考案されたもの。 約半月ごとに季節変化に対応できることから、農作業の目安にするのに便利なものとして、江戸時代の暦に記載されるようになりました。

たとえば 穀雨4月20日: **春の種まき**、本格的な作業の始まり

庭づくりの植物を選ぼう

自分の好きな庭づくりプランを立てよう 骨格になる植物を考える

シンボルツリー・メインツリー 例えば…

- ・ヤマボウシ:白くて大きな花(苞)や赤い実(集合果)が楽しめる。
- ・ハウチワカエデ(別名 メイゲツカエデ):葉が大きく、紅葉が見応えあり。
- ・エゴノキ、ハクウンボク:エゴノキ科の木本。野生では10mにはなるが、庭では4～5m程度にとどまる。
- ・ソヨゴ: 野生では高さ5～12m。生長遅い。△雌雄異株。病害虫被害にあいやすい。
- ・△ブナ:大きく育つので、庭には不向き。鉢植えするなど工夫が必要。
- ・△セイヨウニンジンボク:暑さにも寒さにも強くて丈夫。成長速く、縦横広がる。

庭を構成する植物を選ぼう

★骨格になる植物(「高木層」:高い樹木シンボルツリーなど)

★中程度の高さの植物(「亜高木層」:サブツリーなど)

★低木、高さのある宿根草など(「低木層」:高い樹木と地面をつなぐ植物)

・アジサイ類 ・ガマズミ類 ・ウツギ ・ヒュウガミズキ ・マルバマンサク ・ムラサキシキブ

・ギボウシ類(ギボウシ属(ホスタ)) ・シャクヤク ・ミソハギ ・シュウメイギク ・クレマチス

★地表面の植物、林床植物(「コケ層」:グランドカバープランツなど)

・フッキソウ ・ジャノヒゲ ・ナミキソウ ・セダム類 ・アジュガ(キランソウやニシキゴロモと同属)



ヤマボウシ



エゴノキ



アカシデ

ヒュウガミズキ
県の絶滅危惧Ⅱ類





林床に生育するヤブコウジ



高い山で生育する
イブキジャコウソウ



海岸で生育するナミキソウ

ロックガーデンを参考にする

ロックガーデンとは

高山植物を植えるための岩石を利用した庭のこと。岩石の間に植物を栽培する。18世紀にイギリスで発祥。年間平均気温が低いため、山地や高山の植物が栽培しやすい欧米で発展。

- ・耐寒性のある山野草栽培のノウハウ
- ・日当たりよく、貧栄養で、基本的に排水がよく、保水力がある場所が適している。
- ・高山植物/山野草の植え方：大きすぎないポケット（岩と岩の間）や鉢の真ん中ではなく、岩や鉢の側面に寄り添うように植える。岩や鉢面に沿って根が下に下りる。

列状(ボーダー)花壇の考え方を参考にする

列状花壇とは

建物、塀、垣などに沿って列状につくり、手前に丈の低い草花後方に丈の高い草花を配植し、立体的に構成する。
イギリスの庭の代表スタイル。

園芸日誌をつけよう

★植物の状態や管理の記録をつけておくと役に立つ

- ・植え付け(用土の配合なども)や開花等の記録
- ・天気と水やり、害虫、病気、などの状況と処置、失敗要因

★自分の庭での実際を記録

プラン＆図面づくり

★今年の植栽図と来年のプラン＆図面

- ・今年の記録をもとに植栽図作成 一年草や枯れてしまった植物のあとを計画する。
- ・失敗要因/花暦を考えて、来年を計画。上からと横からの図面作成でイメージしてプラン。